



伝道元禅師所用応量器

道元禅師所用と伝えられる応量器である。応量器とは鉢盂ともいう僧侶の食器である。この応量器は、永平寺 37 世石牛天梁（1637～1714）の門弟である淳高が寄進した箱に収納されている。この箱に収められているものは次のようになる。まず、鉢盂 5 つである。これは頭鉢（ずはつ）1 つ、饅子（ふんす）3 つ、鉢搦（はってつ）1 つからなる。匙筋袋（しちよたい）には箸・匙（さじ）・刷（せつ）が入っている。ともに今日の僧堂の展鉢で使用する応量器と同じといえるが、器は全体に大きいので、真前に供える器であった可能性もある。